

事業実施者： 日本かつお・まぐろ漁業協同組合 使用船舶名： 第18・28亀洋丸

支援期間： 平成25年2月5日～平成28年2月4日 (遠洋かつお一本釣り漁業)

(取組の内容)

- 漁獲物の高付加価値化：
 - ・船上活き脱血装置を設置し、カツオおよびビンナガのS-1製品を製造
- 省エネ運行の徹底：
 - ・漁場の往復航時の減速運航、燃油消費量モニターの設置
- 操業の効率化による燃油消費量の削減：
 - ・東沖漁期時の気仙沼港を基地化
- 気仙沼への水揚：
 - ・東沖操業時のカツオ・ビンナガを気仙沼港水揚。
- トレーサビリティの強化および「気仙沼亀洋丸」ブランドの構築：
 - ・気仙沼港で水揚げした漁獲物についてはQRコードを貼付、船名・漁労長名・漁獲位置等の情報を提供、ブランド化を目指す。
- 気仙沼の震災復興への貢献：
 - ・気仙沼港への水揚、地元での漁船整備・仕込・加工原料提供等



脱血装置



S-1製品



燃油消費量モニター



QRコード



作成したPOP

(事業の成果)

- カツオおよびビンナガのS-1製品を製造し、カツオに関しては計画単価(300円/kg)を上回る事が出来た。
- 燃油消費量モニターの設置し、漁場の往復航時の減速運航を行う事で3年間トータル186KLの燃油消費量の削減が出来た。
- 東沖漁期時、気仙沼港を基地化することにより3年間トータル75KLの燃油消費量の削減が出来た
- 東沖操業時はカツオ・ビンナガを気仙沼港で水揚げした。
- 気仙沼港で水揚げした漁獲物についてはQRコードを貼付し販売し、3年間トータル12百万円の増収効果があった。
- 気仙沼港への水揚げや、地元での漁船整備・仕込・加工原料提供等を行うことにより、3年間トータル690百万円を気仙沼の復興に貢献することが出来た。